

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月23日

【評価実施概要】

事業所番号	870102001		
法人名	有限会社エリア・ネットワーク・サービス		
事業所名	グループホーム あしたば		
所在地	水戸市見川町丹下一ノ牧2131-1303 (電話) 029-305-6914		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年2月20日	評価確定日	平成20年7月23日

【情報提供票より】(平成19年11月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月15日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤	5人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨ALC	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	300円	昼食 650円
	夕食	450円	おやつ 100円
	または1日当たり		1,500円

(4) 利用者の概要(平成19年11月17日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	0		
要介護5	1名	要支援2	0		
年齢	平均 85.3歳	最低	79歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福井内科クリニック、平須歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>ホーム全体が明るくゆったりとした雰囲気である。 管理者は施設の勤務経験から、施設にはないグループホームならではのサービスに理念をもって取り組んでいる。 職員は明るく、温かい気持ちで利用者に接するよう努めている。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価で指摘があった事項について、玄関にスタッフの写真を掲示するなど改善に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義の理解に前向きに取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を2ヶ月おきに5回開催しており、家族からのノロウイルス対策の要望を取り入れ、手すりの消毒など様々な予防対策を実施している。 感染症対策など不安な点について市に問い合わせている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関に「意見箱」を設置するとともに、家族等の面会時に意見や苦情を聴くように努めている。 意見・苦情・相談を受付ける外部機関の周知を図る取り組みが十分ではない。 家族の意見・不満・苦情への対応記録を残していないので、外部の受付機関の周知を図るとともに寄せられた苦情・相談について、家族への説明も含む対応経過記録を残すことが望まれる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の夏祭りに参加するとともに、敷地内で主催する「あしたばの夏祭り」に近隣の住民を招待するなど、交流に努めている。 イベントの交流を通して、日常的な交流に努めることを期待する。</p>
重点項目④	

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく笑顔の絶えない家庭的な環境 その人らしく過ごせる日常的支援」を理念に掲げている。	○	「地域住民との交流」という観点を理念に盛り込むことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念をよく理解しているが、採用時を除いて理念の共有を図る場面づくりまでには至っていない。	○	毎月1回のカンファレンスなどを通じて、理念の共有化を図ることが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りに参加するとともに、敷地内で主催する「あしたばの夏祭り」に近隣の住民を招待するなど、交流に努めている。	○	イベントの交流を通して、日常的な交流に努めることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義の理解に前向きに取り組み、前回の外部評価で指摘があった事項について、玄関にスタッフの写真を掲示するなど改善に努めている。	○	引き続き職員全員で取り組む評価を期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月おきに5回開催している。 会議の中で出されたノロウイルス対策の要望に対し、手すりの消毒など様々な予防対策を実施している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	感染症対策など不安な点について市に問い合わせしている。	○	ホームの現状を知ってもらうなど、双方向の取り組みを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭出納状況は的確に管理しているが、暮らしぶりや健康状態・職員異動等について、家族に定期的に報告するまでには至っていない。	○	毎月の請求時等に併せた定期的報告が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「苦情受付箱」を設置するとともに、家族の面会時に苦情を聴くように努めている。 意見・苦情・相談を受付ける外部機関の周知を図る取り組みが十分ではない。 また、意見・不満・苦情への対応についての記録を残すまでには至っていない。	○	外部の受付機関の周知を図るとともに、寄せられた苦情・相談について、家族への説明も含む対応経過記録を残すことが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	敷地内にあるデイサービスやショートステイの職員も普段から顔馴染みの関係を築いており、異動時における利用者への影響を最小限に抑えている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員に対しては、内部研修用ビデオを活用し教育している。 外部研修に参加した職員は、毎月1回開催の「あしたばケアセンター全体会議」で報告するなど、全職員で共有している。 段階別研修の必要性を理解しているが、離職などにより中堅職員への教育が難しい状況である。	○	職員育成の重要性を認識し、全ての職員が地域密着サービスの従事者として質を向上させていけるよう、離職を防ぐ対策とともに、各自の立場・経験・習熟度の段階に応じた研修計画の策定が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との交流や連携の必要性を感じて運営者と話し合っているが、実現していない。	○	運営者は事業所の質の向上のために、他法人の同業者との交流や連携が不可欠であることを認識し、地域のグループホーム協会等への加入を検討することが望まれる。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学を積極的に受け入れるとともに、敷地内のデイサービスやショートステイの利用を通じて、ホームの雰囲気慣れ親しめるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者から子育てなどを学ぶとともに、「今日はコーヒーにしようか」などに一緒に飲食を楽しんでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時に生活歴や本人や家族の意向等を聴取し、結果を「確認表」に記録している。 日々の生活のなかで、趣味や得意なことを把握しようと努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員を決めて、具体的なケア内容項目を記載した「個別援助計画」を立てているが、介護計画との関連性が不明確であり、二つの計画が存在する形となっている。 介護計画について家族の同意を得ておらず、意見の反映が十分ではない。	○	介護計画と「個別援助計画」の一体化が望まれる。 本人がよりよく暮らすための課題やケアのあり方について、本人を良く知る家族や関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成することが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に、再アセスメントを実施し、介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性を活かした柔軟な支援とサービスを検討するまでには至っていない。	○	利用者と家族が安心して暮らし続けていくための必要な支援を見極め、敷地内のデイサービスやショートステイの活用など多様な支援が望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時に家族の同意を得て事業所による24時間支援とともに、月2回の訪問診療を実施している。	○	かかりつけ医への受診支援も適切に利用できるよう期待する。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力医療機関の医師に参加してもらい、重度化や終末期に向けた方針を検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーに配慮して周囲に聞こえないように排泄誘導している。 現役時の役職を誇りにしている利用者には、その誇りを否定しないよう接している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位のペースでのケアを心がけているが、入浴に時間がかかりスケジュールが立て込んだ場合などにせかせてしまうことがある。	○	職員が利用者に合わせていく姿勢や実践が重要であることを認識し、スケジュールが立て込んだ場合の対応について職員間で話し合いをしていくことが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事しながら、「今日の食事はおいしかった」と尋ねるなど、利用者とのコミュニケーションを取りながら、食事の好みを把握している。 利用者が食器を拭くなど、一緒に食事の片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一日おきの午後の時間帯の支援を行っている。 入浴したくない利用者には、無理強いせず翌日に入浴してもらうようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付け、洗濯物たたみなど利用者の役割を見出すとともに、書道・編み物・縫い物など利用者の得意なことに取り組みめるよう場面づくりをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の公園への散歩や利用者と一緒に買った食材購入など外出支援をしているが、勤務状況によって希望にそえないときもある。	○	利用者と一緒に食材の買い物に外出するなど、日常的な外出支援を継続するための話し合いが望まれる。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所が道路に面しており、交通事故予防の理由で玄関をオートロックしている。	○	鍵をかけることの弊害について認識するなかで、安全確保との両立について職員間での話し合いが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルを作成しているが、訓練等を実施するには至っていない。	○	防災訓練を実施するとともに、災害時に地域の方たちからの支援が得られるよう、体制づくりに取り組むことが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分摂取量を記録している。 栄養バランスなどについて、専門家の意見を受けるには至っていない。	○	敷地内の事業所に配置している専門家による栄養バランスなどのチェックが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳を敷いてコタツを置いた空間を設けるとともに、南向きにソファを置いてくつろげるようにしている。 ホームの南側に木製のテラスを設置し、いつでも出られるようしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、テレビ、使い慣れたカラーボックスなどを持ち込んでいる。 利用者の作品を居室の壁に掲示している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。